

回覧

地域再生 協議会だより

百合が丘 2-29-6(老人憩いの家) 59-9356(火・金午前) isshiki-saisei@grace.ocn.ne.jp

6年間の事業活動に幕

再生協議会 R3 年度決算、解散決定

地域再生協議会は3月30日(水)、令和3年度第2回本部会議を開き、事業活動、決算報告を承認するとともに、協議会組織の解散を決めた。H28年5月に「安心して住み続けられる二宮町の地域再生モデル事業」としてスタートし、地域福祉の再編、文化・音楽活動振興、古民家活用、生涯教育、公園・里山散策路整備、空き家対策など小学校区域をベースにした様々な地域課題に取り組んできた。地域住民主導の取り組みとして多方面の注目を集めてきた。ただこの2年は、コロナ感染の広がりも



あって身動きが取れず、幾つかの課題を積み残したままの解散になった。

H3 年度決算は、別体系の空き家対策事業を除くと、収入、支出はそれぞれ160万円、140万円台にとどまり、最も低調な年度に終わった。前年度に続き、コロナ感染による影響をもろに受けた。解散に伴う差引収支金は約18万円。この間積み上げた資産、備品類は国のルールに沿って後継組織が引継ぐ物と町へ移管する物に別れる。

岡村昭寿会長のあいさつ(要旨)

地域の魅力づくりにために、尽力されてきた各部会長の皆様に感謝致します。折々に指導、助言をいただいた二宮町、音楽祭や空き家対策をはじめ、共に努力してくれた県住宅供給公社にも深くお礼を申し上げます。後継組織の議論では、各自治会の理解と支援によって新たな展望を開くことができました。解散に当たって、幾つかの困難もあったこの活動にかかわった多くの方々に、改めてお礼を申し上げます。

(裏面に3年度決算書 3、4頁に役員・部会長の「6年間を振り返って」を掲載)

後継 元気なコミュニティ、24日発足

一色小学校区地域再生協議会の後継組織、元気なコミュニティ協議会の設立会議が24日(日)、百合が丘老人憩いの家で開かれる。昨年秋に準備委員会を設けており、生涯教育、音楽活動、友情の山、空き家対策など主要な事業を引き継ぐ。また新組織は、6年間の事業を停止した再生協議会だけでなく、近く解散を決める百合が丘・一色生涯学習推進会の事業理念や資産も継承してスタートすることになる。当日は規約決定、役員選出、事業計画、収支予算の審議などを行う。住民の方々のオブザーバー参加を歓迎致します。

人口減などに対応する二宮町の総合戦略(H27年度作成)の中で、そのモデルとして位置付けられていた一色小学校区での地域再生事業が、町政レベルでの何の総括もないままに終了した。スタート時点では、こうした事業・活動を全域に広げる——との想定が立てられていた。この町でいわば孤高の活動を展開してきた一色小学区協議会の主要役員、事業部会長に、「6年間を振り返って」の感慨を短い言葉で綴ってもらった。

事業部会長編は、次回「協議会だより」に掲載

再生への手応え 会長(兼友情の山部会長) 岡村 昭寿



少子高齢化がますます深まり、地域コミュニティが衰退していく中で地域を元気にする事は難題である。再生協議会の6年間に亘る活動には、多くの方の参加があり、活気あるものだった。このことは地域住民のこれら活動への関心の高さを伺わせ、地域活性化への手応えと期待を感じさせた。ところがこの2年間は積み上げてきた活動が充分に行えず、活性化への期待が尻すぼみになったのは残念でならない。

それと、三地区に跨がった協議会の運営には、各地区から選ばれた役員、部会員等の大勢の方々が関わり大変なご尽力を頂いた。その為、人的交流や相互の既存団体への理解も自然に深まり、協議会の運営そのものが無意識のうちに地域興しのような効果も生んだのではないかと感じている。

いずれにしても、地域再生の成果は、数値化がなじまないだけにその評価は難しい。協議会としては町、県住宅供給公社、地域住民等の支援、協力を頂き、精一杯頑張った結果であると割り切っている。

協議会の後継組織である「一色小学校区元気なコミュニティ協議会」が、その名のとおり各自治会、地域住民等の協力をえて地道に努められん事を期待したい。

次は「ゲンコミ」で 副会長(兼地域交流部会長) 山本 正博



協議会6年間のうち、5年間を主に地域交流部会を中心に担当。コロナ禍の2年間は自粛でした。

地域交流部会の活動の中で、様々なキャリアの方と知り合えたことが有意義でした。現役時代とはまるで違う人達、地域や高齢者の方への熱意あるサポートなどは新鮮でした。

地域のコミュニティづくりを目指す「元気なコミュニティ協議会」の生涯学習部会を通じ、皆さんのお役に立てるよう頑張りたいと思います。

100人のボランティアパワー 副会長・事務局長(兼空き家対策部会長) 廣上正市



地域再生の当初提案に村田町長が頭から反対したこと、一色小こもりゆうルーム借用の難交渉、地域課題検討のワークショップ、合唱団結成に110人の応募者、400人が体育館に集合した音楽祭、国交省助成金申請の難作業、コロナ感染に振り回された2年間、バックアップしないと云っていた町長の豹変、自治会結集の難しさ——6年間にはいろいろなことがありました。何よりもこの活動に、100人以上のボランティアが常時参画してきた地域パワーは我々が誇りにすべき物のひとつです。

担当してきた協議会だよりは94号に。100号を密かに意識していましたが、そうはいきませんでした。極力、客観編集を心がけ、時には町に厳しいことも書きました。しかし、二宮町の担当課は揺らぐことなく、町のHPに載せてくれたことには敬意を表します。

国・町の助成から自主自立へ。とてつもなくも大きなテーマですが、6年間の経験を生かし、もう一步前へ進みたいと思います。住民の皆様のご支援をお願いいたします。
一緒に楽しみながらこの町、この地域をアピールしていきたいものです。

後継組織で貢献 副会長 関口 正美



一色地区会の地区長になり、充て職として再生協議会の副会長を拝命することになりました。就任当時どのような組織であるのかすら良く判っておらず、しばらくは会議でも様子見状態でした。

2年前はちょうどコロナ禍の始まりで、なかなか行事も行えない状況でしたが、自分の役割を何とか探して活動して来ました。特に友情の山の「やまゆり鑑賞会」は2年とも実施出来たのは良い経験になりました。他の活動はこれといった成果も無く、部会長の皆様に申し訳なく感じています。

ちょうど「一色小学校区再生協議会」の解散に当たってしまい、後継組織の話合いを進めて行く状況でしたので、少しは貢献できたかなと思っています。後継組織は各自治会などを中心に活動することになりそうなので、次の2年間で軌道に乗せるべく協力していきたいと思っています。

「独立採算」の会計へ 会計 筧 和憲



平成6年夏に転居したのは、温暖な気候で海や山にも近く、都心へも乗り換えなしで通勤できる静かな環境が気に入ったからです。自治会役員になったのを機に、協議会のボランティア活動に係わることになりました。やまゆり合唱団、邦楽演奏とお茶の集い、一色小体育館での音楽祭、こうりゅう塾などを通じ、地域の方々と色々な交流ができました。

令和4年度からの新体制への移行準備に、役員の一人として参画しました。当初から担当してきた文化イベント振興部会(音楽活動部会の前身)とやまゆり合唱団、地域交流部会(生涯学習部会の前身)の会計や総務的な業務も引き続き担当させていただくつもりです。新協議会では、公費支援削減対策として各部会の独立採算性が強化され、これまで以上に創意工夫が求められます。各部会や事務局の方々の協力を得て本部会計としての役割を担って行きたいと思っています。

先進の「お試し移住」 県住宅供給公社部会部会長 金子 久徳



県住宅供給公社部会では、平成28年の協議会発足より、共同農園の運営、コミュニティダイニングの運営、二宮こども音楽祭の開催など、当公社の保有資産を活用した取組みを中心に活動を行ってきました。

令和2年度からはコロナ禍の影響で、各種イベントの中止など活動の制限がありました。そのような中でも、空き家対策部会と連携した「お試し移住」の開催や、音楽部会が開催する「二宮やまゆり里山音楽祭」に協賛として参加するなど、協議会の皆様が機転をきかせていただいたおかげで社会情勢に応じた効果的な活動ができました。

特に「お試し移住」に関しては、民間団体が行う移住促進の取組みとして国内でも先進的であり、令和3年度の開催時には8組の利用者募集に対して合計91件もの応募がありました。また、二宮町内で移住できる空き家が無くなるという嬉しい悲鳴もありました。